

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものにできるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム はつらつ
(ユニット名)	はつらつ(2階)
所在地 (県・市町村名)	三重県津市芸濃町棕本5481-2
記入者名 (2F主任)	坂元 美恵子
記入日	平成 20年 1月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	『あなたの今まで通りの生活を大切にする』を全職員共通の理念として、介護に取り組んでいる。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	事務室に『はつらつの理念』を掲示し、理念の実践に取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	外部からの訪問に対しても、玄関に理念を明示し、誰の目にも留まるようにしている。	○ 訪問の機会のない人々に理解してもらうために、どうしたらよいか考え、実行していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	施設周辺を散歩しながら、近隣の方達と挨拶や会話をしたりしている。	○ 挨拶を交わすことから始まり、気軽に話ができるようになり、近くの方の中には、立ち寄ってもらえるようになってきている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	施設の行事への参加を呼びかけることを回覧にして、地域の人々に情報発信してもらっている。また地域の奉仕作業などに参加し、地元の人々との交流に努めている。	○ 自治会、老人会など、地域の行事の情報を得て、積極的に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、話し合いも行っておらず、取り組んでいない。	○	地域の高齢者の情報を把握し、暮らしに役立つことがあれば協力していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果、改善の指摘を受けたことは、前向きに改善に努めている。	○	外部評価を実施する意義を全職員が理解できるよう、勉強していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回数は少ないが、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	○	会議への参加者を多くし、幅広い意見を聞くことでより一層のサービス向上に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者との連絡調整の機会が作りにくい現状である。時々パンフレットを持って挨拶に行く程度である。	○	市町村を訪問し、担当者と話し合いをする事により、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日本ライフ協会の会員の入居があった事で、学ぶ機会が持てた。現在は必要な人がいない。	○	グループホームでは必要な人があると思われるので、研修会などに出席し、施設でも勉強会を行い、より理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法について学ぶ機会は持っていない。ここの学習意欲にまかせている現状である。虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	○	入所前に自宅などで虐待があったか面接時に把握し、外泊時などに注意を呼びかけ、防止に努めていきたい。外泊より帰所後も話を聞くことで、以後の対応の参考とする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等と納得いくまで話し合いを行い、疑問に答え、不安を最小限にとどめるよう説明を行っている。	○ 入所前に職員全員が入居者を理解できるよう、くわしいアセスメントシートを作成し、入居者が安心出来るケアが出来るよう努めていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも利用者が意見や不満、苦情を言える雰囲気を作り、職員は聞きだせるよう努力し、問題があれば職員は話し合いを行い、より良い解決の対応を検討している。	○ 認知症の方で、自分の思いを上手く表現できない方の訴えを引き出すことへの努力、工夫をしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時を利用し、個々の状況を報告している。緊急時は電話を利用し報告している。全体的な事は、施設で発行しているはつらつ通信を郵送し、活動の内容など知らせている。	○ 職員の異動等についての報告をきちんとしていない。通信を利用したり、面会時に時間をもらうなどの工夫を行い報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接伝えていただいたり、伝えにくい事は、意見箱を利用してもらうよう玄関に置いている。意見は常に運営に反映させ、早急に対応している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行うカンファレンスにて意見を聞く機会を設け、問題や提案等を検討し、反映させている。カンファレンス以外でも話し合いを持つ機会を設け、意見や提案を反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は、必要な時間帯に職員を確保するための話し合い、無理のない勤務調整に努めている。	○ 職員が、平等に希望休がとれるように努力している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを考慮し、最小限に抑える努力をしている。	○ 全職員が、常に入居者や家族に対して信頼関係を得られるよう努力が必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必須の研修を受けることしか出来ていない現状である。	○	業務に支障なく、研修を受ける機会の確保をしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームから協会の会合研修に参加する中で、交流を深め意見交換の場をもっている。	○	職員も、地域の同業者と交流する機会をもち、ネットワーク作りをしていきたい。他のグループホームへ研修に行かせてもらい、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、職員の相談事に親切かつ速やかに応じ、ストレスを軽減するよう努めている。	○	職員間での親睦会の機会を多くもてるよう検討している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は、職員個々の努力や実情、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	短時間に本人の要望を受け止め、信頼関係を築く努力をしている。施設見学も取り入れ、質問にも答え、納得してから利用してもらうよう取り組んでいる。	○	面接、相談援助の研修に取り組みたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の困っている事、不安の解消に役立つよう話をよく聞き、個々のニーズに合ったサービスにつながるよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、話し合いを行い本人や家族が必要としている支援を見極め、施設見学をしていただき、居住環境及びサービス内容を理解していただくよう対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族と相談し、本人が安心できる生活が継続可能か、体験入所をして結論を出していただく方法も実施している。	○	これからも体験入所をしていただき、本人や家族が納得していただいてから入所契約をしていく方法を取り入れたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人と一緒に過ごしながらコミュニケーションをとり、過去の人生経験から学んだり、支えあう関係を築いている。	○	学んだことを活かした支援ができるよう取り組んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には出来る限り会話の機会を持ち、信頼関係を築きあげ一緒に本人を支えていっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	初期面会時に本人と家族の関係の理解に努め、入居後も良い関係が保てるよう日頃の生活状態を口頭で伝えたり、通信で伝えている。	○	家族関係がうまくいっている人といない人を把握し、それぞれに合った対応が出来るよう取り組みたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人に面会に来ていただけるよう連絡をとっているが、一部の人のみしか面会にきていただくことは出来ていない。	○	本人の会いたい人を聞いて、連絡が取れる方法を考えていきたい。思い出の場所へのドライブなども検討したい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士が関わり合える様、双方の間を取り持つようにしている。	○	趣味、関心事が同じ方を把握し、関わり合える様に支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者が今現在いない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりを多く持つことにより、情報を得て本人の希望を受け入れられるよう努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで出来るだけ詳しく記載しているが、以後も本人、家族から聞き取りが出来る機会を多く持ち、経過等の把握に努めている。	○	これまでの暮らしの把握をし、ケアに活かしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の日常生活を日々観察、把握し、情報を共有していくよう努力している。	○	記載をきちんとする事で情報を共有していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族との話し合いの機会を作ることが難しい。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスを実施し、現状に即した新たな計画を作成している。	○	職員だけのカンファレンスになる事が多いので、関係者を含めたカンファレンスが実施できるよう努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人のカルテ、業務日誌に記載し、朝の申し送り時に報告、検討しながら情報を共有している。	○	介護計画の見直しにつながる記録の書き方の研修をしていく必要があると思われる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	単独事業であるため、多機能性を活かすことは出来ていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアによる歌の会など催しがある。定期的に消防署協力による防火訓練、救命講習を実施している。	○	本人の意向に沿った催しをしているか検討の余地あり。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ADLの低下や、家族の希望により特別養護老人ホームへの転移の相談支援をする事が多い。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働したことはない。	○	要支援の利用者があった場合には、地域包括支援センターの助言を受け、実践していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面接時にはかかりつけ医を決めていただいている。ほぼ一箇所にしぼられているので、関係を築きあげられ連携できている。適切な医療が受けられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者には、認知症の専門医の紹介にとどまっている。	○	医師との関係を築き、職員も勉強する必要がある。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職と相談し、必要に応じて受診の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は家族、主治医との情報交換を密にし、早期退院可能な場合はスムーズに受け入れできるように努力している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入院時は家族、医師との話し合いを繰り返し、チームとしての方針を共有している。	○	今現在、重度化、終末期は入院をすすめているが、これからは家族の希望に沿い、グループホーム利用者が希望する場合は受け入れを検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化の場合、グループホームでできることとできないことを見極め、かかりつけ医と連携をとりながらチームとして支援に取り組んでいる。	○	重度化の利用者への対応方法の勉強会が出来るよう取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから病院、または特別養護老人ホームへ移り住む方の場合、情報交換を密に行いダメージを防ぐことに努めている。退所後も必要に応じて電話連絡を行い連携している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけ、対応、行動に充分注意し、個人情報の取り扱いに配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	認知症のある利用者の、理解できる能力に合わせた説明を行い、希望を表せるように働きかけたり、自己決定できるように支援している。	○ 本人の思いや希望を引き出せるような支援が充実するよう取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で可能な限り、個々のペースで過ごしていただけるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容 美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望む店などがある場合は行って貰っている。職員が対応する場合は近隣にとどまっている。	○ 今まで通っていた馴染みの店に、家族の協力を得て行けるよう取り組んでいきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週一回の自由メニューにて、好みの食事を取り入れている。利用者と職員と一緒に準備、片付けを行っている。	○ 個々の能力に合わせた支援方法を考え、共有していく必要がある。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の望むものを、日常的に楽しめるよう支援している。	○ タバコは喫煙スペースにて吸うようお願いすることを納得してもらおう取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを記録表を用いて把握するよう実施している。声かけやトイレ誘導により失敗を防ぐ努力をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう準備している。時間帯は、職員の勤務時間に合わせて協力してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、好きな時間に休憩、安眠できるよう環境作りに取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸、買い物、ドライブ、読書、絵画など個々の楽しみ、趣味を個別に活かしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方にはお金を所持したり、使えるように支援している。希望時、買い物と一緒にいき、自分で支払いをしてもらうよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は希望があれば散歩にでかけている。一人ひとりのその日の希望に沿っての外出は難しいが、日を決めて外出の機会を作っている。	○	勤務調整をして、なるべく天気の良い日は戸外に出かけられるよう検討していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行かない場所への外出の機会が減ってきている。花見、紅葉など季節に応じての外出を行っている。	○	家族への協力を呼びかけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をかけたり、手紙を投函したりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を決めず、いつでも都合の良い時間に訪問できるよう配慮している。好みの場所で面会していただき、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	○	面会のない方への配慮方法を検討していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解しているが、実施できていない部分もある。	○	研修への参加や、勉強会の開催などを通じて、職員全員が正しい理解の下、ケアに取り組めるよう努めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の目の届かない時間帯は、ホールの入り口、玄関に鍵をかけている。	○	なるべく目がゆき届く時間帯は鍵をかけず、開放的な雰囲気を作りができるよう取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室入室時には、声かけしている。居室の見回りをして、入居者の安全確認をし、所在や様子を把握し、安全に配慮している。	○	入居者の行動を常に把握し、不在のないよう確認している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁は夜間、事務室に保管している。洗剤類も夜間はクローゼットに片付け、直接入居者の手に触れないよう配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故防止のために勉強会を定期的開催していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の訓練を年一回行っている。	○	引き続き応急手当、初期対応の訓練を継続していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震、水害時の訓練を行っていない。地域推進運営会議にて協力をお願いしている。	○	定期的に利用者と共に訓練を継続していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に説明をしている。リスク対応が必要になった時点でも家族に説明し承諾していただいている。	○	家族との話し合いの場を多くもち、その内容を文章化して残していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを実施している。異変の発見に努め、発見の時点で医師、看護師に連絡を行い指示を仰ぎ、速やかな対応に結び付けている。	○	職員が異変を早期発見できるように勉強会を行っていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員により、出来てない人もいる。カルテに薬の情報がファイルされている。	○	各自、カルテを見て勉強していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、水分量の調整、食物の工夫、運動療法などで対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就前に義歯洗浄を日課としている、義歯でない方には歯磨きの声かけ、一部見守りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、粥食、きざみ、とろみ食などを提供し、必要な方には記録表を利用し、食事量、水分量のチェックをしている。なるべく本人の習慣、好みに合わせたメニューになるように配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防、対応マニュアルを作り実行している。外出後はうがい、手洗いを行っている。トイレ後、食前の手洗いの声かけも行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防のために、台所、調理用具等の衛生管理を行っている(ハイター消毒)。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにプランターを置いている。玄関まわりを清潔にし、危険のないよう、環境整備を行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、不快な音や光がないようにテレビのボリュームの調整、カーテンによる遮光などに気をつけている。テーブル、洗面台などに季節の花を生けたり、壁に季節にちなんだ貼り絵を飾り、季節感を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳、テーブル席があり、一人ひとりが思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら、なるべく普段使用されていた物を持参していただいている。配置も本人が居心地良く過ごせるよう配慮していただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	巡回時に喚気、温度調整をこまめに行っている。	○	職員が介入できない人への対応策を考え実行していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が送れるようにバリアフリーになっており、手すりも取り付けられている。	○	浴室の利用時、下肢筋力の低下により危険な場合もみられ、手すりの位置、数などを検討し、改善していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を防ぐよう、気配りや目配りをして、自立して暮らせるよう対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りに植木、プランターを置き、入居者と一緒に水やり、手入れを楽しんでいる。裏庭には畑も作り、作物の成長、収穫を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今まで通りの生活を大切にし、入所による不安、混乱を最小限にとどめることが出来るよう、個々のニーズに合った対応、サービスを、職員全員が一体となり、努力し、実践しています。入居者、家族共に安心して生活していただけるようニーズを傾聴し、受容、共感の気持ちで優しく接しています。協力医療機関との連携をはかり、健康管理にも気を配っています。